

1. 評価結果概要表

平成20年 11月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	2072100221		
法人名	社会福祉法人 みまき福祉会		
事業所名	ほのぼのホーム		
所在地	東御市布下37番地 (電話) 0268-61-6165		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年11月21日	評価確定日	平成20年12月12日

【情報提供票より】(20年 10月 10日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤5人	非常勤3人 常勤換算6.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	平屋	階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	500 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,380 円

(4) 利用者の概要 (10月 10日 現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1名	要介護2	1名
要介護3	6名	要介護4	1名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 85.5 歳	最低 81 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東御市立みまき温泉診療所、中島医院、とうみ歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北に浅間山を望み、南には御牧原台地、西に八重原台地、東に布引温泉、眼下に千曲川が流れている布下温泉近くの自然豊かな地に事業所はある。21世紀の高齢者社会に対応する拠点施設の役割を担うものとして出発した母体法人が隣接する敷地内で法人の運営方針を中心にすえ、職員で作り上げた理念を掲げ、役割を持ち家庭的な環境と地域住民との交流の下で生きることの喜びを共有することを目指して事業運営を行っている。隣接する介護老人福祉施設や診療所等と多職種協働検討会を通じての有機的な連携により利用者を総合的に介護し、地域連携情報会議などにより地域全体で見守る体制が整備されている。食事の献立作り、食材の買い物、調理や片付け、温泉入浴、時にはぶどう狩りやいちご狩り、梅干や干し柿作りなど当たり前の地域で暮らす家庭生活の雰囲気を醸し出していた。豊かな自然の中で四季折々の風を感じながらゆったりと暮らしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善項目は8項目あったが、7項目は改善されていた。地域とのつきあいは、散歩や買い物での近隣者との挨拶など改善努力はしており、さらに、地域連携情報会議、近隣防災協定などを通じて、地域との連携は充分出来ているが、日常的な近隣との接触は住宅地から離れているため、立地条件的に困難が多いと感じた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で取り組み、外部評価も含めて、評価に対する理解は充分出来ている。評価結果に対しても改善の取り組みをし、実績を上げており、評価すること、評価されることを真摯に受け止めて、有効的に活用している姿勢が伺えた。職員との対話も素直に、てきばきと受け答えして好感が持てた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議は年4回、構成メンバーも基準を満たし、有識者も加わるなど会議の充実度を感じた。活発な意見交換も行われ、会議での要望等に対しては早期に実現に向けての努力を積極的に行うなど、会議に対する事業所の熱い眼差しと会議メンバーの事業所に対する理解の大きさが伺えた。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>年4回の家族会や面会時に、ご家族の思いや意向を聞いている。ご家族への暮らしづくりの報告も充分出来ていて、たよりも年4回発行し、たよりに通信欄を設けるなどの工夫もされている。ご家族のアンケートでも、「職員はよく話を聞いてくれる」、「気軽に行きやすい」がほとんどであり、職員との信頼関係が良く出来ていて、思いや意向が充分に伝わっていることを感じた。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>周辺に住宅は少なく、日常的な接触は困難であることを感じた。事業所としてはデイ利用者との交流、散歩や買い物時の近隣者との挨拶、中学生の福祉体験の受入れ、また地域連携情報会議、消防団との近隣防災協定、運営推進会議等を通じての地域との連携など地域との出会いや関係性を大切にしている。見慣れた風景の中で、地域に見守られて日々を過ごすことは、利用者が豊かに暮らすための条件であるので、さらに推し進めることを望みます。</p>

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の運営方針である、地域で生活する人々の、健やか、安心、自立の核になることを基に、職員の中から作り上げた「のびやかに、すこやかに」という事業所独自の理念を、利用者の手書き作品にして見やすい位置に掲げてあった。地域との関係性を盛り込むと地域密着型が、さらに明確になると感じた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議で理念を唱和するなど、その内容は職員に充分浸透していた。理念を掲げることの意味は、事業所が何をしたいのかを明確にし事業運営の柱とするためであることを理解していて、自分たちの拠り所となり、固くなくわかりやすいと感じていることを伺った。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住宅地から離れていて、日常的な接触は難しさがあるが、地域の祭りや行事に参加し、買い物や散歩の折に近隣者との会話、中学生の福祉体験の受け入れなど地域との交流に努めている。デイ利用者との交流、事業所行事への招待など地域との関係性の中で事業運営をしていることが伺えた。地域情報連絡会議等を活用して、さらなる交流を望みます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組み、これで良いと思ってしまっていたこと、気付かないでいたことが分かり、出来ていないことは積極的に改善しようと思えるようになったことを伺った。外部評価では事業所全体の雰囲気や共用空間、居室などの感じを聞くことが出来、具体的な改善に結びついたことも多々あり、評価に対して十分な理解が出来ていた。		

ほのぼのホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は年4回家族会と合同で開催され、構成メンバーも有識者が加わるなど充実している。十分な意見交換が行われ、改善意見に対しては積極的に実現に向けて行動するなど会議に対する事業所の真摯な姿勢が伺えた。有識者のアドバイスもあり、偏重のない実り多い会議となっていると感じた。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>法人の原点が行政であるので、その結びつきが強いと感じた。包括支援センターや福祉係からのアドバイスや情報も多く頂けて、良好な関係の中での事業運営になっている。ただ、私的法人としての独自性はいつまでも持ち続けることを望みます。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日用品の購入は出来るだけ家族に依頼して面会の頻度を高め、その結果、家族との接触が多くなり、利用者の暮らしぶりの報告も頻度良く出来ている。金銭管理も出納責任者の欄を設けて、牽制体制を整え、ご家族の信頼感を得ている。たよりを年4回発行し、ご家族への通信欄を設ける工夫が施され、利用者の生活の様子が定期的に報告されていた。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年4回の家族会や面会時に、ご家族の思いや意向を聞いている。ご家族のアンケートでも「家族の話をよく聞いてくれる」「気軽に行きやすい」がほとんどであり、職員との信頼関係が良く出来上がっていることを感じた。市の介護相談員も3ヵ月に1度、2名で訪れていて意見等を言いやすい環境が整っている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動が少ないので、利用者へのダメージはほとんどなく、事業所の人事管理に対する配慮の良さを感じた。扉一つの区切りであるデイサービスとの交流は頻度が高く、異動があっても、その日の職員であるため、馴染みの関係は築かれており、違和感のない配置となっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>依田窪福祉会との合同研修会を始めとする学習の会に年3～4回、勤務の中で工夫して参加している。感染症や食事のケアなどの基本的介護についても学んでいる。自ら目標を決めて、自ら学ぼうとする姿勢を事業所はしっかりと支援している。主である認知症に関しては研修だけに頼らず、自ら本を読むなどの独自の学びの姿勢を持っている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>恵仁福祉協会・依田窪福祉会との施設交流、GH相互評価事業を行い、他事業所からの刺激によりサービスに対する姿勢の確認と事業所の長所短所を知って、次の展開への手がかりを掴もうとしている。相互評価にとって大切なことは、職員自身の力で達成できるソフト面に重点を置いた、勇気をもらえるような評価内容にすべきだと感じている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>地域包括支援センター等との連携により十分な情報を得ると共に、利用者やご家族と解りやすい言葉や同じ目線で十分な話し合いをして、納得と同意を得て入居に導いている。交流のあるデイを利用している入居などのため困難事例は少ないが、見慣れぬ風景の中で暮らすことになったケースは職員の寄り添うケアと粘り強く待つ姿勢で馴染んで暮らすようになったことを伺い、その光景を見ることが出来た。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>農作業や食事作りは、こちらから利用者に相談を掛けて、諸々のアドバイスをもらいながら行っている。古い歌なども教えてもらいながら一緒に歌うなど、共に行動することにより、共に支えあいながら暮らしていることを実感できるように工夫している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>言葉の端々にも耳を傾けて利用者の思いを捉えようとしている。又、家族や友人等からも情報を聞いて利用者の思いに近づこうと努力している。記憶に残る写真を取っているが、単にファイルするだけでなく、ケアプラン等に反映されるような意味ある記録になるよう工夫されることを望みます。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>課題分析はセンター方式を活用し、ケアマネージャーが中心となって作成している。月2回のカンファレンスがあり、担当制を取っていないこともあり、職員は介護の中で見聞きし、プランに反映すべきことは積極的に提案し、全職員でプランを見守っている姿勢が伺えた。重度化しているが安心して暮らせるような日々となるようなプランを職員は目指している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6か月に1度、プランの見直しを行っている。これまで、臨機応変に見直しをするようなケースはなく、順調に推移していることを伺った。ただ、今後は重度化等の状況に応じたプランの見直しも必要になってくるので、職員の日々の介護の中から見つけた小さな変化も見逃さず、プランに反映させる柔軟な姿勢を持ち続けることを望みます。</p>		<p>ケアプランの評価と経過記録が不十分であり、様式を検討して、次のプランに結びつきやすいものにするのを望みます。特に記録は同じことを何回も書いたり、生活記録になったりしがちであるので、必要不可欠なことだけを記入するような簡潔な様式になるよう工夫することを期待します。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>訪問看護ステーションとの契約による医療連携体制がある。又、入院した場合は病院との連携を密にして利用者が安心して過ごせる体制となっている。なお、平成20年9月から緊急対応ショートベッドを通常利用に切り替えている。</p>		

ほのぼのホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本的には利用者、ご家族の希望する医療機関となっている。緊急時の受診は隣接の診療所を利用している。週1回の訪問看護ステーションの看護師による健康チェック、年1回の健康診断、隣接する診療所と医療面においては利用者やご家族の安心感を得ている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期は家庭で見るケースがあったり、隣接する介護老人福祉施設等を含む法人全体で対応する体制となっていて、たまたま対応したケースが1例あったが、基本的には終末期の対応はしていない。ただ、今後のことも考慮して、研修を通じて重度化や終末期に対する職員の意識や理解を深めている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日々の生活の中で気付かずに尊厳を傷つけるような言動は出やすいので、言葉遣い月間を設けたり、職員相互に注意し合ったり、勉強会で話し合ったりとプライバシー確保の徹底を図っている。年6回の認知症の研修会を重ねるなど、認知症介護の中で起こりやすいケースをしっかりと学んでいる。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的には一日の流れはあるが、午睡は自分好みの場所で取ったり、隣接する設備を使ってリハビリ運動をしたり、デイサービス利用者と交流したり、自由に散歩に出かける人もいたりして、それぞれの人が、その人らしいペースで暮らしていることが感じられた。</p>		

ほのぼのホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理、片付け、洗物は日常の生活として職員と一緒にっており、スーパーや直売所への食材の買い物も行き、借用している畑で取れた野菜も使って、どこの家庭でも普通にやっているように食事全体に関わっている。誕生日や行事には希望の物を食べて、時にはインスタントラーメンを食べることもあったりと楽しみながら食事をしていることが伺えた。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>日・水曜日を除く週5日間、デイサービスが利用した後の午後、温泉入浴を1人週3日利用し、中には毎日入る人もいる。夜は遅出が居る午後8時までは入浴が可能となっている。入浴拒否者は馴染みの関係が出来ているので居ないが、該当者が居れば、話術を尽くして対応する姿勢を持っていることを伺った。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>梅干、干し柿作り、洗濯物たたみ、掃除、体操、リハ運動等それぞれの役割や楽しみを実現している。ご家族を誘ってのぶどうやいちご狩りなど気晴らしや楽しみに繋がる支援が出来ている。月1回の隣接施設での喫茶コーナーの利用も楽しみの一つになっている。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>食材の買い物を兼ねての直売所への散歩や日光浴散歩など日常的に行っている。美術館、遠方の道の駅での食事外出、花見など利用者の希望を聞いて出かけている。事業所の東側にある芝生の中庭は木陰もあり、のんびりと外の風を感じ、季節の移ろいを味わう良い外出先になっている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中、玄関は鍵をかけていない。万一のために、玄関とデイとの境の扉にセンサーを取り付けてある。離所対応として近隣、消防団、商店との連携が取れるようになっている。又、職員は常に利用者の所在の確認を行い、安全で快適に暮らせるよう配慮している。</p>		

ほのぼのホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>避難訓練と防災訓練を隣接事業所等と合同で年1回ずつ行っている。地域住民は事業所の見学もしており、消防団とは近隣防災協定も締結され、地域の協力体制は出来ていた。隣接施設の協力が得られ、電磁調理器の導入、日報への火元確認など対策は充分であると感じた。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は利用者と共に作成し、隣接施設の栄養士の指導を受けている。食事量のチェックは出来ていたが、水分量の確認がないので、利用者の水分必要量を把握して、日々チェック、記録することを望みます。利用者の身体状況記録やチェック表がケアプランに活かされやすいように工夫されることを期待します。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂は採光も良く、台所は電子調理器のため清潔感があり、調理器具や食材等が良く整理されていて、シンプルであった。居間はソファがあり、ゆったりした空間で、居室との境が障子になって和風の趣があり、観葉植物が配置され居心地良く過ごせるよう工夫されていた。小上がりの畳の間は仕切りのない事務室であるが、利用者の生活の中に上手く溶け込み、事務の仕事が暮らしの一部になっていた。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は採光も良く、窓からは浅間山が望め、室内には利用者の馴染みのものが置かれていた。古いタンスが壊れて、ご家族が新しい物を買ってきたが、利用者は寂しがっていたと職員から聞いて、改めて使い慣れたものに囲まれて生活することが利用者の安心に繋がっているかを感じた</p>		<p>パーティションで仕切られた居室が2部屋あり、窓もなく、事務室のような寂しさを感じた。壁や仕切りに工夫を凝らして、ゆったりとくつろげる部屋になるよう改良することを望みます。</p>

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。